

実施クラス				実施日			実施保育者名	
5	歳児	らいおん	組	6	月	11	日 (水)	川邊

● 実施計画

活動テーマ	
サイエンス ～天気～ 雨と雪はどこからくるの？	
活動テーマに関する 日頃の興味関心について	

日頃から子どもたちは雨が降ると、「どうして雨が降るの?」「雲からお水が落ちてくるの?」などの疑問をもっている。また、天気の変化や雨の日の生活に興味を示し、自然現象への好奇心が芽生えている。冬になると雪が降ることを知っているが、「雪はどこから来るの?」「雨とどう違うの?」といった疑問を抱いている。また、雪の結晶の形についても「雪って全部同じ形なの?」「どうしてキラキラしてるの?」といった興味が見られる。

活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00~10:05	<ul style="list-style-type: none"> 前回の雲と雨の実験振り返りをする。 くもり、雨、晴れ以外の天気は何か考え、発表する。 雪の意見が出たことを確認し、今回は、雪について活動することを伝える。 雨や雪がどこから降ってくるのか、何でできているのかをグループで話し合いながら考える。 「雨や雪はどこから降ってくるのかな?」「何でできているのかな?」「雪はどんな季節に降るのかな?」「雪はどんな形をしていた?知っているかな?」等と問いかけ、発言を援助する。 意見はホワイトボードにまとめる。 空気中から水を取り出す実験を行うことを伝える。【実験①】 実験の手順を知らせ、どうなるか考え、発表する時間を作る。 	<p>【環境設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 室内で机を出した状態でpadを見やすい位置に座れるようにする。 コップを一緒に観察し顔を見合わせて意見を言い合える位置を用意する。 <p>【準備物】</p> <ul style="list-style-type: none"> プラスチックのコップ 割りばし 水 常温の水 常温の色水(絵の具を溶かして作成) 塩 雲、雨、雪の発生原理の図 雪の結晶の画像 ホワイトボード ホワイトボードマーカー iPad
10:05~10:20	<ul style="list-style-type: none"> 「コップやお水や氷はどうなると思う?」「お水は水を入れるとどうなるかな?」と問いかけ、発言を引き出す。 温度計について説明する。 コップの外に水滴がつく現象を観察し、空気中の水分が冷やされて水滴になることを知る。 空気中の水分が冷やされて水滴になる様子を観察し、空気中にも水があることに気づくことができるようにする。 コップに氷を入れるたびに手で触って水温を確認しながらどう変化しているか確認する。 「この水はどこから来たのかな?」「コップの中の水が外に出たの?」など自ら考えるきっかけとなる問いかけを行う。 「コップはどうなるかな?」「コップの中の水は氷を入れるとどうなるかな?」「氷は水を入れるとどうなるかな?」と問いかけ、観察の視点を広げる。 2つの実験を比較してどうだったかを発表する。 雨や雪はどこからくるのか、再度考え、発表する。 天気ニュースの動画を見て、「雪」のちがいにについて知る 雲・雨・雪の発生原理の図と雪の結晶の画像をホワイトボードに貼り、みんなで確認していく。 「雨と雪は水でできているんだね。」「雪は寒い冬だと見られるのかもしれないね。」「雪の結晶は、顕微鏡で見るとこんな形に見えるよ。どう思う?」「あったかそう?冷たそう?」等と問いかけをお粉、子どもたちの気づきを援助し、雪は冬に降ることが多いことを確認する。 「今日、気づいたことや、感じたこと、思ったことは何かな?」と問いかけ、自分なりの気づきや感想を言葉にする機会を作る。 次回も、天気についての実験を試してみることを伝える。 	
10:35~10:40	<ul style="list-style-type: none"> 「今日、気づいたことや、感じたこと、思ったことは何かな?」と問いかけ、自分なりの気づきや感想を言葉にする機会を作る。 次回も、天気についての実験を試してみることを伝える。 	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちに「雨を作ってみよう!どうやったら出来るかな?」という疑問を投げかけ、実験を通じてその仕組みを知ることができるように進めた。 最初に自由に意見を出し合い、様々な考えを共有した後、冷水を入れたコップの外側に水滴がつく現象を観察した。 子どもたちは、「コップの中から水が出たの?」と疑問を持ち、空気中の水分が冷やされて水滴になることに気づいた。 実験を通じて、目に見えない水が存在していることを発見し、子どもたちの探究心が深まった。 	<p>【子どもの姿・声】</p> <ul style="list-style-type: none"> コップについた水滴に中々気づかず、「あれ?何が変わったのかな?」など不思議そうにしていたが、一人が「わあ!コップに水滴がついてる!」と気が付くと、次々に「本当だ!」「水だ!」「触りたい!」「これが雨なの?」と発言が続いた。水だけの時と水をいれたときの違いを思い思いに伝えていた。冷たくなっていると水滴がつくことに気が付いた子もいた。 <p>【保育者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが発言した内容を受け止め、さらなる考察を促す質問を投げかけた。 実験前に結果を予測させ、実験中は変化を観察する手助けをした。 子どもたちが自らの考えを表現できるように促し、正解にこだわらず考える過程を重視した。

● 振り返り

保育者側の気づき	園長からの感想・助言内容
<ul style="list-style-type: none"> 実験の過程を通じて、子どもたちが興味をもち、自分の考えを発表する姿が見られた。結果として、空気中の水分や冷却の影響について理解を深めることができた。 雪については時期が違っていたが、動画でみることで昨年の雪を思い出しながら雪を身近に感じていた。 雪にも違いがあることを初めて知り、興味深く見ていた。 日常活動ではあまり取り扱うことが無い素材を使った。今後のプログラムでも初めての素材を扱うことが多くなるので導入や周知方法の流れをある程度決めておく。 「正解を求めるのではなく、考えることが大切」というメッセージが子どもたちに伝わるよう、より意識的な声かけが必要。 	<p>コップ、氷など身近なもので「雨」ができたため「家でもやってみよう!」との声がかかれた。家庭でも一緒に出来る機会はとても良いと感じた。コップの水滴が中々できず、保育者が色々試行錯誤していたが、保育者も一緒に試したり失敗したり、考える姿は子どもたちと一緒に探求している姿にもなり大切な姿だと感じた。ウエザーニュースは難しいかなと予想していたが、「雪」にも違いがあるのだということとても興味を持っていて予想以上に集中して理解できていた。また冬になったら冬の天気にも親しむ機会を設けたい。</p>

実施クラス			実施日			実施保育者名			
5	歳児	らいおん 組	8	月	8	日 (金)	川邊		

● 実施計画

活動テーマ		
たべもの ～水～ 水ってなに？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
水を触ったときの冷たさや流れる様子、こぼれたり消えたりする不思議さに日常的に興味をもっている。「なんでぬれるの?」「なんで流れるの?」と、感覚を通じた体験から水に関心を寄せている。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00～10:10	・水とは何かを問いかける。	【環境設定】 ・安全に探究できるよう環境を設定する。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 ・正解を求めるのではなく、予想し考える態度を大切にする。
10:10～10:30	・子どもたちの意見をホワイトボードにまとめる。 ・水を水槽やコップに入れて観察してみる。 ・さまざまな形の容器に水を入れて、形の変化を探究してみる。	【活動使用教材】 ・水 ・透明のプラスチックコップ ・スロープ ・電気ポット ・水 ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー
10:30～10:40	・スロープを使い水の流れを探究してみる。 ・温度で水がどのように変化するかを調べてみる。 ・探検での発見や感想を発表する。発表の内容をホワイトボードにまとめていく。 ・水の性質について確認する。	【事前準備】 ・水を扱う活動になるため、水で濡れる点に注意し、転倒などの事故を防ぐよう環境を設定しておく。 ・牛乳パックやペットボトルなどで傾斜のあるコース(スロープ)を用意しておく。子どもたちと作成しても良い。 ※切り口でけがをしないよう配慮する。 ・氷を作っておく。子どもたちと一緒に作っても良い。 ・探究活動で使用する用具の使用方法を設定しておく。

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・導入では、水はどのようなものか考え、「手を洗うときに使う」「雨」「つめたい」など、日常生活からくるもの、感覚や印象から水について考える発言していた。</p> <p>・水について、色、形、においや流れ、三態と状態変化など体験を通じて探究を深めた。</p> <p>・振り返りでは、気づきや調べた内容を共有し合った。</p>	<p>【子どもの姿・声】</p> <p>・「水って透明なのかな」「葉っぱみたいな、飲むにおいなのか、よくわからないにおいがする」</p> <p>・「なんで水って時間が経つと乾くのかな」「湯気は手がぬれるね」「氷はとけたら水になるよ」とそれぞれの気づきを伝えていた</p> <p>【保育者との関わり】</p> <p>・子どもが見つけたことに対して、「ほんとうだね！なんでそうなるんだろう?」と問いかけを重ねることで、さらに観察や考察が深まるように意識した。</p> <p>・一人ひとりの気づきをみんなで共有できるように、「Cくんはどう思った?」「Bちゃんはどうだった?」と対話をつなげた。</p>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>・子どもたちは、普段当たり前に触れている水にも強い関心を持っていることに改めて気づいた。</p> <p>・「なんで?」「どうしてこうなるの?」といった自発的な疑問が自然と生まれる環境を用意することで、探究心がどんどん引き出されることを実感した。</p> <p>・子どもによって着目するポイントが異なり、一人ひとりの視点や感じ方に違いがあることがよくわかった。そこに丁寧に寄り添うことで、気づきや学びが深まる手応えがあった。</p> <p>・「やってみよう」「もう一回やりたい」という声が多く、体験そのものが子どもにとっての学びの原動力であることを再認識した。</p> <p>・保育者が「教える」のではなく、「一緒に気づく・一緒に不思議がる」スタンスで関わることで、探究的な学びの促進につながると感じた。</p>	<p>身の回りの「水」について改めて考えてみると当たり前だったことも不思議に思ったり考察がうまれたりして子どもたちの発想や思考がたくさん動いた。「水」の様々な変化に気づいたり、大人にはない着眼点があった。子どもたち目線で探求をひろげていくことが大切と感じる</p>

実施クラス	実施日	実施保育者名
4.5 歳児 こあら らいおん 組	12 月 11 日 (木)	川邊

● 実施計画

活動テーマ		
アート～色のふしぎ～ これは何色？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
日々の生活の中で、身の回りにある色に自然と目を向けている。『この花はあか！』『先生の服はみどりだね』と色を言葉にしたり、絵を描くときに好きな色を選んだりしている。また、食事の中でも『にんじんはオレンジだね』『ブロッコリーはみどりだね』と気づいたり、活動の中で色の違いや混ざり方に関心をもつ姿も見られる。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00-10:15	<ul style="list-style-type: none"> ・「いろおに」をして、保育室内の色に関心をもたせる。 ・色の原料の写真から何色ができるかを考える。 ・12色の色画用紙の中から、好きな1色を選ぶ。 ・選んだ理由を考え、なぜその色が好きなのかを考える。 	<p>【環境設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちがたくさん色を見つけやすいように、環境を用意する。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 <p>【準備物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12色(赤、橙、黄色、ピンク、青、水色、緑、紫、白、黒、灰色、茶)の色画用紙 ・赤青黄色紫白黒などの原料の写真(赤…カイガラムシ、青…ラピスラズリ、黄色…クチナシ、紫…アカニシ貝、白…ハマグリ、黒…墨) ・寒色暖色中間色の色見本 <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤、橙、黄色、ピンク、青、水色、緑、紫、白、黒、灰色、茶色の八つ切り画用紙
10:30～10:45	<ul style="list-style-type: none"> ・色の持つ印象について話し合う。 ・「どの色が楽しい？」「どの色が悲しい？」など、色彩心理学の視点から色の効果を体感する。 ・「赤は元気が出る色？それとも静かな色？」など、感じ方の違いを共有する。 ・寒色暖色中性色について知る。 ・生活の中で色を意識する機会を増やすよう促す。 ・身の回りの色に注目し、それぞれが持つ意味や効果を考える。 ・次回は色作りの実験をすることを伝え、次の活動に興味を持てるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・色の効果、寒色暖色中間色について事前に学習して理解を深めておく。 ・色の原料について事前に学習して理解を深めておく。 ・赤青黄色紫白黒などの原料の写真。(赤…カイガラムシ、青…ラピスラズリ、黄色…クチナシ、紫…アカニシ貝、白…ハマグリ、黒…墨) ・寒色暖色中間色の色見本をプリントする。 ・色彩心理学に関する資料を用意し、理解しておく。

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
導入でいろおにをして色について興味を持った。色の原料の写真から何色が出るかを考えた。また12色の画用紙の中から好きな色を選び、この色が好きな理由を考えることで色への理解を深めた。また寒色暖色中性色について知り、色のイメージをみんなで話し合うことで更に色への興味を深めた。	<p>【子どもの姿・声】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「この色は明るくて楽しい感じ！」「青好きだけどピンクと並べたら暗い色に見えちゃうね」「〇〇から色ってできるんだね」などそれぞれの気づきを発言する様子が見られた。 <p>【保育者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「この色を見てどんな気持ちになる？」「どんな場面でこの色が使われているかな？」と問いかけながら、子どもたちが色の持つ意味を考える手助けをした。また色の役割についても簡単に紹介し、興味を広げるようにした。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちは、色の違いや組み合わせに強い関心をもち、「自分でも色んな色を作ってみよう」と興味を深めていた。 ・自分の好きな色を選び、その理由を考えることで、色への理解が深まり、表現する力も育まれていた。 ・色彩心理の話に興味を示し、思い思いに頭に浮かんだことを発言していた。 	<p>「色」については前から興味が高かった子どもたちだった。また「英語探求」でも色に触れていたので関連制を持って取り組めたことがよかったと思う。色彩心理については先入観のない子どもたちならではの感性や感覚が現れていた。</p>

実施クラス	実施日	実施保育者名
4・5 歳児 こあらいおん 組	2 月 17 日 (火)	川邊

● 実施計画

活動テーマ	
おかね ～おかねってなんだろう～ お金ってどんな形？	
活動テーマに関する 日頃の興味関心について	
<p>前回の物々交換体験を通じて、お金が「物を交換するための便利な道具」であることを理解した。 日頃の生活の中で見かける日本のお金について、その形やデザイン、色など、具体的な特徴に好奇心が向いている。</p>	
活動スケジュール	環境設定 ・ 準備物
時間	内容
10:00～10:05	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の活動を振り返り、物々交換がうまくいかなかった理由とお金の利便性を再確認する。 ・お金はどんな形、色、模様かを考えてみる。
10:05～10:30	<ul style="list-style-type: none"> ・大昔はお金が貝殻だったことを知る。 ・自分だけの(またはクラスだけの)オリジナルのお金について、形や値段、絵などを考える。 ・アイデアを基にオリジナルのお金を描く。 ・描いたお金について発表し、友達の作品の素敵な点も共有する。 ・次回、このお金で「お店屋さんごっこ」をして買い物体験をすることを伝え、期待につなげる。
	<p>【環境設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作り、一人ひとりの意見を尊重し、受け止める。 ・正解・不正解を明らかにするのではなく、多様な捉え方や考える姿勢・態度を大切にする。 <p>【活動使用教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬貨幣(紙幣、硬貨) ・画用紙(白、八つ切り、1枚/人) ・筆記用具(色えんぴつ、クレヨンなど) ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬貨幣をクラス人数分以上用意しておく。 ・デザインのヒントになる図鑑等を用意しておく。

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<ul style="list-style-type: none"> ・前回の活動を振り返り、お金が交換に便利な道具であることを確認した後、実際のお金がどんな形、色、模様かについて考えた。 ・自分たちで新しいお金を作るなら、どんな形、値段、絵にしたいかを考え、自由な発想でオリジナルのお金を描く活動を行った。 ・オリジナルのお金を使い、買い物ごっこを行った。 	<p>【子どもの姿・声】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「どんなお金作ろうかな」「大きさを変えてお金の値段変えようかな」と考えて作っていた。 <p>【保育者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見た目だけでなく、感触や重さの違いなど、観察する視点を広げられるように援助した。 ・現実のお金にとらわれず、子どもたちの自由な発想を尊重するよう配慮した。 ・発表時、質問や問いかけを通して発表内容が具体的にできるよう援助し、友達の作品で気づいた点を認めていくことを意識した。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<ul style="list-style-type: none"> ・オリジナルお金作りでは、子どもたちの自由な発想を褒めることで、やる気にも繋がりが黙々とお金作りを行っていた。また他児と被らないように作る姿も見られた。 ・自分達で大きさによって、お金の価値を変えるという考えを自ら持つことも出来ていた。 	<p>日頃は玩具の一つだったり大人が扱うものである「お金」だが、ルーツを知ったり、「お金」とは何か。をみんなで探求することで「お金」について身近で大切なものであることを知ることができたと思う。自分のオリジナル「お金」を作成することは遊びを通して「お金」に親しむ体験となった</p>